

平成23年11月30日



担当課	博物館
担当者	高橋 克伸
電話	423-0003

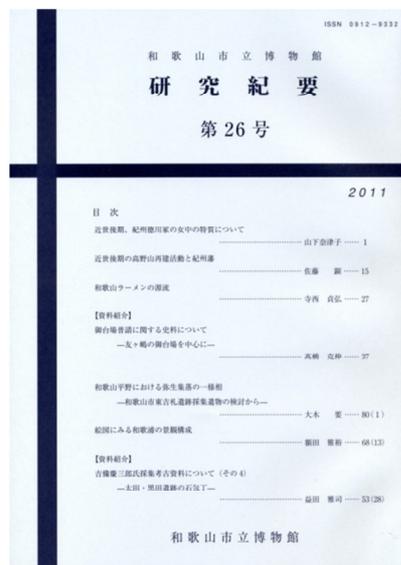
研究紀要の販売について

最新号『和歌山市立博物館研究紀要』26号 発売

和歌山市立博物館では、調査研究事業の一環として、毎年研究紀要を発行しています。その最新号となります『和歌山市立博物館研究紀要』26号を発刊する運びとなりました。

今号では、和歌山市の歴史に関連する5編の論考、2編の資料紹介を掲載しています。この紀要を通じて、市民の皆さまが和歌山市の歴史について改めて考える機会をもっていただければと思います。

- 1 名称 『和歌山市立博物館研究紀要』26号
- 2 掲載論文 別紙参照
- 3 体裁 A4判、80ページ
- 4 販売価格 500円（消費税分を含む）
- 5 販売開始 平成23年（2011年）12月1日（木）より
- 5 販売場所 和歌山市立博物館（和歌山市民図書館西隣り）
- 6 問合せ先 〒640-8222 和歌山市湊本町3-2 和歌山市立博物館
Tel 073 (423) 0003 / Fax 073 (432) 9040
Mail hakubutsukan@city.wakayama.lg.jp
HP <http://www.wakayama-city-museum.jp>
- 7 担当者 和歌山市立博物館 総括学芸員 高橋克伸



※ 詳細は別紙参照

掲 載 論 文 (掲載順)

近世後期、紀州徳川家の女中の特質について

山下奈津子

江戸時代の後期(19世紀初頭～中頃)に紀州徳川家に仕えていた女中について、家老・三浦家との交際を通じて、その特質を整理した。参勤交代のため江戸と和歌山を往来する11代藩主・徳川斉順、隠居した後、西浜御殿で余生を送る10代藩主・治宝、江戸に留まる藩主の正室。それぞれに仕える女中がおり、その役割に応じた特質を見ることができる。特に治宝の住む西浜御殿に仕えた奥女中たちが、江戸・和歌山間の女中同士の交際において大きな働きを見せていたことが窺える。

キーワード：女中、側室、奥(大奥)、徳川治宝、西浜御殿

近世後期の高野山再建活動と紀州藩

佐藤 顕

天保14年(1843)に焼失した高野山金剛峯寺の壇上伽藍再建活動を検討し、江戸時代後期の紀州藩と寺院の関係を考察した。高野山による再建嘆願は江戸幕府に対して行われ、直接嘆願するだけでなく紀州藩からの口添えを得た。幕府財政が悪化していた時期であったため容易には認められず、最終的に幕府の勘定奉行へも働きかけることによって、幕府からの下賜金を得て御免勅化(幕府の認可を受けた募金活動)が認められた。

キーワード：高野山、紀州藩、徳川治宝、徳川斉順

和歌山ラーメンの源流

寺西 貞弘

まず、和歌山ラーメン本来の姿を、スープ・麺・具材等から復元している。次に、その確認できる最も古い事例を考察し、大正以前には既に存在していたことを指摘する。さらに、その店舗が車庫前に集中していたことから、戦前に存在した歩兵第六十一連隊に係ると推定している。また、日露戦争末期に粉食地帯の中国東北部に同連隊が駐屯していたことから、明治末年の同連隊の和歌山への移駐が、和歌山ラーメンの誕生に関係しているとする。

キーワード：車庫前、歩兵第六十一連隊、日露戦争

【資料紹介】御台場普請に関する史料について —友ヶ嶋御台場を中心に—

高橋 克伸

幕末、異国船(黒船)に対する防禦として紀州藩は御台場を築いた。本稿は、友ヶ嶋御台場を中心に、藩士の提出した1通の龍神温泉への湯治療養願と、友ヶ嶋御台場の普請帳(御台場工事の見積もり)から、その建築状況や御台場の構造を解明し、ひいては紀州藩の異国船に対する対応姿勢を資料紹介している。

キーワード：黒船、龍神温泉、友ヶ嶋御台場普請

和歌山平野における弥生集落の一様相

—和歌山市東吉礼遺跡採集遺物の検討から—

大木 要

東吉礼遺跡の採集遺物をまとめるなかで、東吉礼遺跡を含む吉礼遺跡群は弥生前期中段階に出現し、明確な断絶期がなく、庄内式併行期まで継続する集落として位置づけることができた。また、和田川流域のそのほかの弥生集落も、明確な断絶期がなく継続して営まれる状況が判明した。その状況に関して、和田川流域の集落が自然環

境の制約から、大規模集落を営めるだけの十分な生活域と可耕地を確保できず、集落経営の可能な範囲に集落規模が抑えられたと想定した。

キーワード：東吉礼遺跡 弥生時代 継続的集落 和田川流域の弥生集落

絵図にみる和歌浦の景観構成

額田 雅裕

近世地誌書から和歌浦の景観構成要素を設定し、名所図11点と真景図31点の景観分析を行った。名所図からは、聖武天皇の行幸があった頃（724年）は干潟・入江と砂州に生える布引松という海浜景観が和歌浦の原景観であったと推定した。真景図には多くの景観構成要素が画かれ、片男波の砂州はほとんどの真景図に画かれ重要な景観構成要素であるが、名所図には3点しか画かれず、古代から中世にはそれほど重要ではなかったと考えられる。

キーワード：和歌浦、景観構成要素、名所図、真景図、地誌書

【資料紹介】吉備慶三郎氏採集考古資料について（その4）

—太田・黒田遺跡の石包丁—

益田 雅司

和歌山市立博物館が、平成14年6月14日に和歌山市に在住されていた郷土史家吉備慶三郎氏（雅号 慶舟。1902～1990）から寄託資料として受け入れ、「和歌山市立博物館研究紀要」20号から掲載している「吉備慶三郎氏採集考古資料」を紹介する第4回目。和歌山市太田・黒田遺跡で採集された日本の弥生文化を特徴付ける代表的な石器の一つであり、一般的には穀類の穂摘み機能を持つと考えられている「石包丁」23点について紹介する。

キーワード：吉備慶三郎、採集考古資料、太田・黒田遺跡、石包丁

執筆者（掲載順）

山下奈津子（やました なつこ）	和歌山市立博物館	学芸員
佐藤 顕（さとう あきら）	同	学芸員
寺西 貞弘（てらにし さだひろ）	同	館長
高橋 克伸（たかはし かつのぶ）	同	総括学芸員
大木 要（おおぎ かなめ）	和歌山市教育委員会文化振興課	学芸員
額田 雅裕（ぬかた まさひろ）	同	副課長
益田 雅司（ますだ まさし）	和歌山市立博物館	学芸員